

# 「岩船米コシヒカリ」栽培基準 (3割減農薬)

- ◎ 環境にやさしい減農薬・減化学肥料栽培で売れる岩船米を作ろう！
- ◎ 適期播種と5月10日頃以降の田植えの実施で収穫期を本来の8月10日以降に改善しよう！
- ◎ 前年度のこぼれ糞や、農機具の掃除不足による異品種混入に注意しよう！
- ◎ 元肥一発肥料は重ね撒きにならないように均一に散布しよう！
- ◎ 適正な元肥量を施用し過剰生育を防止しよう！(例年過剰生育になる場合は2~3割程度減肥する)
- ◎ 中干しは早め(田植え後4週間頃)に行い、過剰生育を防止しよう！
- ◎ 安全・安心「岩船米」生産のためにカドミウム吸収抑制対策(水管理)を徹底して行おう！
- ◎ 適期収穫により早刈りを防止し、ふるい目1.85ミリによる丁寧な調整で「全量1等」に仕上げよう！
- ◎ 土づくりを積極的にを行い、気象変動に動じない米づくりを目指そう！
- ◎ 適正管理で食味のよい米で単収510kgを目指そう！

時期	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
栽培管理	種子更新 種子消毒(温湯消毒) 浸種 育苗土準備(覆土・床土) 床土混和あるいは播種後灌水 催芽 元肥施用 耕起			荒代かき 田植 水田除草剤散布			中干し終了(小ヒビが入る程度) 溝切り (中干し2週間程度)			湛水開始 出穂25日前 穂肥(1回目)0~12kg 穂肥(2回目)0~11kg			出穂 カメムシ防除 穂いもち・カメムシ防除 (敵対策にバリダシンの混用可)			湛水終了 出穂25日後 出穂30日後			収穫 乾燥・調整 土づくりの肥料・堆肥の施用			秋すき込みは、地温の高い10月20日頃までに！ (地温15℃以上)		
	【元肥施用量の上限】 ○越後の輝き 有機50元肥 30kg/10a ○越後の輝き 有機30スーパー元肥(一発) 40kg/10a			【植込み本数】 1株苗数は3~4本とし大苗は厳禁！(使用箱数は10a当たり18箱が目安・上限20箱)			☆中干しの目安 茎数が1株当たり16~17本			☆穂肥1回目の目安 茎数 400本/m <sup>2</sup> (1株当たり20本前後) 草丈 72cm 葉色 32.5(SPAD)			【穂肥施用量の上限】 ○越後の輝き 有機50穂肥 1・2回目合わせ25kg/10a ※一発元肥使用の場合は穂肥の施用はできない			○刈取品種の切替時には、機械掃除の徹底を(異品種混入防止) ○水分15.0%仕上げ ○高温での乾燥や急激な乾燥はしない(胴割れ防止) ○糞すりは適正な流量で(糞混入防止) ○1.85ミリのふるい目で丁寧な調整を ○機械を過信せず、目で確認しながら作業			(出穂後の核算 温度1,000℃)					
記号	② A B			③ C D			E			④ ④			F G			⑤								

## ■推奨肥料と施用基準

記号	肥料名	成分	施肥基準 (kg/10a)	備考
①	越後の輝き 有機50元肥	N-P-K 10-13-10	30以内	どちらかひとつ
	越後の輝き 有機30スーパー元肥	15-7-7	40以内	
②	稚苗代配合(育苗床土)	4-6-5 Mg1	600g以内	どちらかひとつ
	ホーネンス培土	0.046-0.046-0.046	60以内	
③	くみあい液肥2号(100倍液)	10-4-8	20L以内	
④	越後の輝き 有機50穂肥	12-2-8	25以内	
⑤	すくすく岩船米ソイル元気	0-5-1.5 Mg2 Si20 Fe7 Mn2	60	最低1つは投入 複数投入可能
	牛ふん堆肥		1t~1.5t	
⑥	豚ふん堆肥		200~600	生育不足の場合
	有機アグレット816号	8-1-6		

## ■推奨農薬と農薬取締法に基づく安全使用基準

記号	薬品名	安全使用基準			備考
		希釈倍数・散布量	使用時期	使用回数	
A	タチガレン粉剤または液剤	粉、6g・液1000倍液1L/箱	粉、播種前・液、播種時	1回以内	どちらか1剤
B	カスミン粒剤または液剤	粒、20g・液4~8倍液50ml/箱	粒、覆土前・液、覆土前	1回以内	どちらか1剤
C	Drオレイゼフェルテラ箱粒剤	50g/箱	播種前~田植当日	1回以内	選択
D	パッチリ1キロ粒剤	1kg/10a	移植同時~ヒエ2.5葉期、但し移植後30日まで	1回以内	選択
	パッチリジャンボ	10袋(40g/1袋)/10a	移植直後~ヒエ2.5葉期、但し移植後30日まで	1回以内	どちらか1剤
E	クリンチャー1キロ粒剤	1kg/10a	ヒエ4葉期田植後7日収穫30日前まで	1回以内	選択
	クリンチャーEW	100ml/10a	体系処理ヒエ6葉期田植後20日収穫30日前まで	1回以内	どちらか1剤
F	スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで(使用適期、出穂後3~7日)	1回以内	どれか1剤
	ブラシジョーカー粉剤DL	3~4kg/10a	収穫7日前まで	1回以内	
	ブラシジョーカーフロアブル	8倍もしくは1,000倍	収穫14日前まで	1回以内	
紋枯病防除はバリダシンで単独で行うか、上記薬剤との混用もしくは混合剤で同時防除してください					
G	スタークル粉剤または液剤	粉3kg/10a・8倍もしくは1,000倍	収穫7日前まで	1回以内	選択どちらか1剤

※ 1上の表、栽培管理作業名下の記号は資材名となっておりますので留意願います。なお1つの記号に複数品目掲載の所は、どちらか1品目をえらんで下さい。  
 2上の表、備考に選択とあるものは、使用・不使用を選択下さい。